

清

せい せい

政

56

御歌

帰り来るを立ち待てるに季のなく  
岸とふ文字を歳事記に見す

# 英霊を貶める事なかれ

神道政治連盟京都府本部

本部長 林 秀 俊

神政連の活動の柱の中には、命を賭して国難をお守りいただいた英霊に対し、尊崇の念と冥福を祈ることの大切さを謳ってきた。

京都府本部においても、設立三十周年を機に毎年靖國神社へ参拝団を送っており、更に三十五周年以降、京都府出身者並びに関係者の御霊に対し冥福と感謝の誠を捧げるため慰霊祭を齎行してきた。取り分け四十周年には、境内への桜木の植樹をお許しいただき、我々が献木した河津桜は、一足早く開花し参拝者の目を樂しませている。

一昨年安倍第二次政権が誕生して以来、総理大臣の名のもと真榊が奉納され、また七年振りに総理の参拝が叶った。

しかしながらまたもや中韓は、日本のマスコミの後押しを受け、内政干渉よろしく「軍国主義の再来」と異常なまでに神経を尖らせ、挙げ句の果てには米国まで不快感を示す有様である。

靖國神社参拝に反対をする輩達は、

①「A級戦犯」ゆえに天皇陛下も参拝で

きない

②戦争犯罪者を祀る靖國神社への参拝は時代を逆行するものである

③戦場で命を落としたわけでもない人々が祀られている

等いつまで経っても同じ論理を蒸し返す。

この際、先ず①②について時系列を追って糺してみよう。昭和殉難者、いわゆるA級戦犯が合祀された経緯は、昭和二十七年の主権回復に伴い、多くの国民の赦免署名により東条英機閣下以下が赦免されたことに端を発すると思われる。幾分上乘せは有ろうが、当時の国民の半数近くに上る、四千万もの署名が集まったのだが、皮肉にもその中心的役割を果たしたのは、今や靖國訴訟告訴の中心となっている浄土真宗の門徒達であった。その後国会において全会一致により赦免決議され、国際的にも戦勝国十一ヶ国の同意により昭和三十三年には全ての戦犯が赦免されたのである。然るに関係機関において合祀について取り上げられたことは想像に難くない。

昭和四十五年二月には、当時の筑波藤麿宮司が、崇敬者総代会においていわゆるA級戦犯合祀を決定、時期については宮司預かりとなっている。その後昭和五十二年十月十七日、陛下のお許しのもと合祀祭が齎行された。陛下は、昭和五十年十一月二十一日に靖國神社へ行幸遊ばされているが、その年の八月十五日に三木総理が参拝した際、歴代総理では初めて「私的参拝」だと発言したことにより、行幸前日の十一月二十日には、日本社会党の

野田哲等が参議院内閣委員会において、「陛下の参拝は憲法二十条二項の政教分離原則に抵触するのではないか」と質問、法制局長が「重大な問題になる」と答弁したのをきっかけに、「政治問題となりかねない」と危惧した宮内庁が、陛下に参拝取りやめをお勧めしたことが、天皇陛下御親拝停止の端緒である。

さらに中韓の対応を検証すると、昭和五十四年春秋の例大祭に大平総理が参拝、その年の暮れに訪中するも中国政府からは大歓迎を受けている。翌年中曽根康弘代議士訪中の際には、中国人民解放軍参謀長から日本の軍事費倍増が求められているのである。

では、何故靖國神社を目の敵にするような事態に陥ったのか。中国評論家の石平氏いわく、「八十年代には反日感情は無かった。ましてや鄧小平による改革開放は日本から学べと言った風潮であった。しかし九十年代に入り突如一八〇度変わったのは、一九八九年の天安門事件の影響である」と断言されている。また「その反政府運動鎮圧のための手段として、反日教育の有効カードを与えたのが中曽根康弘氏であり、その火付け役が社会党と日本のマスコミである」と斬り捨てる。

昭和六十年八月十五日、戦後総精算の意を込めて靖國神社に参拝した中曽根総理に対

し、大手新聞は参拝批判記事を連載し、社会党議員はその記事に反応しなかった中国政府を焚きつけた。そうやって初めて中国政府から批判が起こり、中曽根総理は、胡耀邦総書記への配慮から翌年以降参拝を止めた。「この行動によって日本の意志薄弱な点をさらけ出してしまった」と、石氏は強調されている。

当時の中国の情勢を振り返ってみると、共産主義から民主化の動きが若者を中心として起こり、共産政権は危機感を感じていた。昭和五十一年の周恩来死去に伴い、民主化運動による第一次天安門事件が起きている。死者は定かではないが多くの逮捕者が出たことは確かである。その後、昭和六十年の胡耀邦死去によりさらに民主化運動が拡大し、天安門広場に集まった一万人の学生は出けら同然のように命を奪われ、同様に地方でも二万人の人々が犠牲になつている。これが所謂世界を震撼させた第二次天安門事件である。

中国共産政権においては、若者の不満を内政から遠ざけるために、他国の意見に直ぐ折れる日本に矛先を向けることが手取り早い手段であったようである。中曽根氏が良い例である。その後、徹底した嘘と捏造により作り上げられた反日教育の結果が、今日の中の現状である。陛下の参拝が叶わないのは当

然のことであり、安倍総理は中韓が何を言おうとも信念を曲げず毅然と参拝することにより、陛下も静かにお参りいただける環境が整うものと確信している。

次に、③の「戦場以外で命を落とした人が祀られている」ことに關しては、シベリア抑留により亡くなった方も祀られ、更に遡れば安政の大獄により処刑された吉田松陰も祀られているのである。いわゆるA級戦犯とされた昭和殉難者の極東裁判による処刑死は、まだ日本が主権を回復していない戦勝国による軍事占領下における違法な裁判によつて行われたことであり、日本の国運を担つてこられた東条英機閣下含め七名の昭和殉難者が祀られることは当然のことだと考える。

以上時系列を追つて検証すれば、中韓の主張は言いがかりに他ならない事は明白である。もう靖國神社が外交カードに使われるのはうんざりである。中韓の横暴がはつきりとした今、靖國神社を中韓、さらにはアメリカの政治の道具に貶めることなく、これからも日本のために殉じた英霊を、心込めお護りしたい。



神政連時局対策連絡会議報告

吃緊の課題を聴く

石清水八幡宮 権禰直 田中博志

去る二月二十四日、神社本庁にて開催された第十二回時局対策連絡会議に、初めて青年隊員として参加させていただいた。

開会式が静謐な雰囲気の中粛々と行われ、来賓の代表として中曽根弘文参議院議員より祝辞があり、引き続き研修会が始められた。

初日の講義Ⅰでは、歴代七人の総理大臣の内閣官房副長官を務められた石原信雄先生より、まず「憲法と天皇制について―大喪の礼及び即位の礼を中心として―」と題する講義を拝聴した。戦前は「登極令」や「皇室葬儀令」といった皇室の葬儀に関する法令があったが、現「皇室典範」には儀式内容などが明記されておらず、昭和天皇崩御の際に、現行憲法下で「大喪の礼」を如何に行うかについて

各省庁間を奔走し調整された経緯を説明いただいた。現憲法下での神道式の葬儀は、憲法二十条の政教分離原則に反して違憲であるとの見解が内閣法制局から出されたので、激しい議論の末に神道式の儀式である「葬場殿の儀」は国事行為ではなく皇室の儀式に政府が参列する形式を採り、また葬儀後

半の「大喪の礼」は、神道色を除き政府主催の国事行為として行うなど、憲法との整合性を配慮した形となった。つまり大喪の礼・即位の礼・大嘗祭まで、あらゆる儀式が政教分離に反するかどうか議論の対象となり、皇室の祭祀や伝統が憲法のもとに改変縮小されてきた。官僚達のこのような考え方

が、皇室の活動を憲法の中に閉じ込め、近年の宮中祭祀簡略化にまでつながってきていることに気づかされた。

続いて「河野談話について―その発出の経緯について―」と題した講義を同じく石原先生より拝聴した。先生は内閣官房副長官として河野談話作成に関わった一人であり、その経緯を詳細に説明いただいた。当時の日韓関係は外交上大変冷え込んでいて、それを改善・発展させる為に、韓国側の善意を信頼して発表した談話であり、そのため根拠となった十六人の慰安婦の身元や証言も、日本政府からはあえて裏付け調査は行わなかったと明かされた。日韓関係の改善を期待して発表したとされる談話が、結果として現在にまで悪影響を及ぼしていることは、外交上失策だったと言える。

続いて講義Ⅱでは、高崎経済大学教授の八木秀次先生より「今日の諸課題―皇室・家族法制・教育」と題した講義があった。まず昨年十一月十四日に宮内庁から発表さ



石原信雄先生



八木秀次先生

れた「今後の御陵及び御葬儀のあり方について」との文書について説明いただいた。この発表で、両陛下の御陵の規模を昭和天皇陵と香淳皇后陵より縮小して宮建すること、御葬儀については火葬を導入すること、儀式全体の組み立ては火葬を前提にそのあり方を検討すること等、簡略化を進める方針が示された。この発表に際しては「今後の御陵及び御葬儀のあり方についての天皇皇后両陛下のお気持ち」と題する文書が添えられ、あくまで両陛下の御意向を踏まえての発表であるとされた。しかし先生曰わく、宮内庁は天皇陛下の御意向という大義名分の下に皇室祭祀や行事の簡略化を進めており、そこには女性天皇や女性宮家の議論も含めて、官僚達が憲法の中に皇室の活動を閉じ込め管理しようとする考え方が根底にある、と述べられた。憲法の政教分離の原則が、皇室祭祀の簡略化や変更の根拠となり、男女平等思想が女性天皇容認の考え方に繋がっているのなら、それは現行憲法を



阿比留瑠比先生



ありむら治子先生

金科玉条の如く崇めてきた日本の戦後思想の当然の帰結であり、根本的には憲法改正以外に解決できない問題であると強く感じた。

二日目の講義Ⅲでは、産経新聞政治部編集委員の阿比留瑠比先生より「河野談話について」と題した講義を拝聴した。先生は、政府による元慰安婦への聞き取り調査の報告書が極めて杜撰であったとする記事を産経新聞紙上に発表された。そもそも十六人の慰安婦達の聞き取り調査を行った場所が民間の反日団体の事務所であり、その半数以上の出身地が不明、三人は氏名も不明という素性すら明ら

かでない杜撰な調査であった。この様な報告書が、日本軍による強制連行の根拠となり河野談話が発表され、今日の政治問題の発端となっているのである。この問題において、まさに憲法前文に明記されているように「平和を愛する諸国民の公正と信義に信頼して」政治判断を行った結果、その善意が裏切られ、わが国に不利益をもたらしているのである。また先生は、「従軍慰安婦」という言葉を

作つたのが反日日本人であるように、現在でも朝日新聞や左翼政治家、弁護士、知識人達がこの問題に火をつけて回っていると述べら

れた。左翼邦人による反日行動が、外交上の政治失策までをも引き起こす遠因となっているならば、この問題は大変根深い問題であり、政府による談話の見直しが始められる動きがあるとはいえ、まずは正しい歴史認識を広める活動に邁進していく必要があると感じた。講義の後は、質疑応答に続いて閉会式が行われ、来賓代表としてありむら治子参議院議員より祝辞をいただいた。

今回初めて本研修会に参加する機会を与えていただき、三人の先生方から時宜に合った貴重な講義を拝聴させていただいたが、それぞれの問題の根底には憲法が存在が深く関わっていることに気づかされ、今後も憲法改正や自主憲法制定運動の重要性を理解し、皇室を拝戴する日本の文化伝統に根ざした国づくりの実現にむけて、微力ではあるが積極的に活動していきたいと決意を新たにしました。



昨年十一月十九日・二十日の二日間  
にわたり、恒例の沖縄慰霊参拝  
団が結成され、林秀俊本部長以下  
二十六名が参加しました。

初日京都を早朝に出発し、まず波  
上宮に正式参拝をさせていただき、  
その後宜野湾市嘉数にある嘉数高台  
公園内の二、五三六柱の御霊を祀る  
「京都の塔」にて、吉田副本部長齋  
主のもと慰霊祭を斎行しました。本  
年も林ふくよ、梶久美子両京都女子  
神職会会員による「常永遠の舞」が  
奉納され、その後全員で「海ゆかば」  
を合唱し、英霊の御霊に鎮魂の祈り  
を捧げました。

慰霊祭終了後、防衛省沖縄防衛局  
の方から普天間基地についての現状  
説明等をしていただき、沖縄の抱え  
る問題の一端を垣間見ました。夜は  
参加者一同で沖縄料理をいただき懇  
親の輪を深めました。

二日目は、沖縄県立博物館を見学  
し沖縄の文化に触れ、その後航空自  
衛隊の嘉手納基地を見学しました。  
ここでは自衛隊の諸活動について説  
明を受け、実際に戦闘機を真近で見

## 沖縄「京都の塔」戦没者慰霊参拝団に参加して

長岡天満宮 宮司 中小路宗俊

また基地内の食堂で自衛隊員と同じ  
昼食をいただきました。日本の国土  
を守る自衛隊の方々のご苦労が伝わ  
り、今の日本の平和は多くの方々の  
努力で保たれているのが改めて分か  
りました。

その後、沖縄戦で従軍看護婦とし  
て活躍し犠牲になった女子学徒隊の  
うち、沖縄県立第二高等女学校の四  
年生たちによって編成された部隊関  
係者を含む百四十九柱の御霊を祀る  
「白梅の塔」を訪れ、哀悼の意を捧  
げました。この場所は、有名な「し  
らゆりの塔」とは違い殆ど訪れる人  
のない静寂の森の中にあり、慰霊碑  
の前に立つと何とも不思議な敬虔な  
気持ちになりました。

一行はその後、琉球ガラスの体験  
などの後、那覇空港より関空へ向か  
い全員無事に帰京致しました。

最後になりましたが、毎年「京  
都の塔」での慰霊祭の諸準備をして  
いただいている波上宮の皆様、及び  
参拝の企画手配をいただいた事  
務局の方々に、衷心より感謝申し上  
げ報告と致します。



平成二十六年三月二十七日、恒例の靖國神社慰霊参拝が執り行われ、林本部長以下総勢二十九名が参加しました。

早朝、京都駅より新幹線に乗車、東京駅に到着した一行は、タクシーに分乗して一路、靖國神社に向かいました。靖國神社は、桜の開花宣言が出された直後で、春の訪れが感じられる心地良さの中、多くの参拝者で賑わっていました。

まず、境内、遊就館に立ち寄り、英霊となられた方々の遺品を拝見して、胸がつまる気持ちになりました。遺書の展示コーナーでは、ずっと立ち止まってすすり泣きをされているひとりの女性の姿が印象的でした。また、多くの外国の方々が見学に訪れていたことは驚きでした。国を想って亡くなられた方々に由来する数多くの展示品を見学するには余りにも時間が足りなかったことが残念でした。

引き続き、慰霊祭に参列する為、御本殿に向かいました。待合室では小方権宮司様より、京都の慰霊参拝

## 靖國神社慰霊参拝を終えて

平安神宮 権禰宜 中東敬智

団と同様の動きが他県にも拡がっているとのお話を伺い、嬉しく思いました。祭儀は荘厳な御本殿にて厳粛に執り行われ、国や家族を守る為に尊い命を捧げられた英霊に対し謹んで感謝の誠を捧げました。

その後防衛省に移動。十四年前に移転した巨大な本庁舎に圧倒されながら広い敷地を歩き、その一角に入りました。そして、その一室で担当官の方から我が国の防衛の基本方針について説明していただき、緊迫した東アジアの情勢下、限られた予算の中で防衛力を整備していく困難さを感じました。さらに、同敷地内に移築された東京裁判の舞台ともなった市ヶ谷記念館を見学。昭和史の重みと当時の建築技術の素晴らしさを肌で感じて東京での行程を全て終え、関係各位のおかげで大変充実した一日を過ごすことができました。

戦後六十余年の年月が過ぎ、遺族の世代交代が進む中、慰霊の精神を次世代に確実に伝えていく為にも毎年参拝団を募る意義は深いものであると実感しました。



# 京都府戦歿英霊追悼慰霊祭 合同時局講演会

とき…平成二十五年十二月六日  
場所…京都ガーデンパレスホテル



本年度十回目を数える京都府戦歿英霊追悼慰霊祭及び、京都府神社庁・京都府神社総代会・神政連京都府本部共催による国民精神昂揚運動合同研修会・時局講演会が、多数の来賓・参列者を得て開催された。

慰霊祭では先ず国歌斉唱、「海ゆかば」の合唱の後、花房副本部長が斎主を、また神社庁祭儀委員が祭員を務め、同雅楽委員による伶人、八坂神社及び平安神宮の巫女の「浦安の舞」の奉仕により、多数の参列者が見守る中厳肅に祭儀が斎行され、参列者はそれぞれに玉串を神前に捧げ、戦歿英霊の御霊安かれと祈りを捧げた。

引き続き国民精神昂揚運動合同研修会・時局講演会が開催された。林本部長が先ず開会の挨拶を行ない、来賓代表として、齋藤副庁長に祝辞をいただいた。本年の講演講師には、テレビや雑誌等でご活躍の、皇室ジャーナリスト高清水有子先生をお招きし、「天皇后両陛下のお人柄と皇室のいい話」と題して講演いただいた。

## □ 時局講演会 □

### 天皇后両陛下の

### お人柄と皇室のいい話

講師 皇室ジャーナリスト

高清水有子先生

今日は、皇室の報道の中で特に、あまり報道されていないこと、皇室の方々の地道なご活動、今の皇室報道のあり方や問題点についてお話ししたいと思います。

私の皇室との関わりは、元々日本テレビの事件記者をしていたとき、「礼宮殿下ご結婚」の取材をしたことから始まりました。

### ■ 皇室のおつとめ

色々なところで講演していると、最も多い質問は「天皇后陛下は何をなさる方なのか」ということです。私は迷わずこう言います「天皇后陛下は、日本国民のため、世界平和のため御祈りをして下さっている」と。また、その祈りは、例えば元旦早朝、極寒の中での四方拜に表われるようにとても過酷なものです。殆どの国民はそれを知



らない。この祈りの御心は天皇陛下の御言葉や御製、節目節目の記者会見のなかで感じることが出来ます。

### ■ありがたき平成の詔

日本人は普段は意識しなくとも、何か大きな出来事があったときに皇室を戴いている国民でよかったですと思うのです。

未曾有の大災害だった東日本大震災の折にも、天皇陛下は僅か五日後に異例の御言葉を発せられました。残念ながら被災地には直ぐには御言葉が届きませんでした。

ここで、あらためて天皇陛下の御言葉を映像でご覧戴きたい。

### 《天皇陛下の御言葉上映》

この平成の詔は、次の世代になぐためにも教科書に載せてもらいたいと思っています。

### ■被災地に寄り添う

陛下は御言葉の中で、「長く被災地にこころを寄せてゆきたい」と仰いましたが、天皇后両陛下は、この御言葉通り七週連続で被災地に御見舞いにお出でになっています。東京の計画停電の折も、

皇居のある千代田区は対象にはなっていないでしたが、両陛下には自ら電気を消し暖房も止められて、不自由な生活をする国民とともに過ごさしなされました。その後御病気の手術をお受けになりましたが、御退院後はまた積極的に被災地の御見舞いを始め公務を続けになっておられます。また、陛下は被災地に詳しい専門家を定期的に皇居に御呼びになり、被災地の状況をおられます。

このような陛下の国民を御見舞いしたいという御気持ちをはじめて取材したのは、平成三年の雲仙普賢岳噴火の御見舞いの折でした。とても暑い日で、皇后陛下は首元を真っ赤に日焼けさせて御見舞いに回られていたのが印象的です。



### ■遺伝子に刻まれた愛国心

奥尻島の地震災害では、両陛下の御訪問など全く興味のなかった避難所に生活する一人の少女は、天皇后両陛下に直に会って「なんだかわからないけど涙が流れた」と言いました。この少女の涙は、日本人のDNAが流させたのではないのでしょうか。親や学校から教わらなくても日本人として大事なことはちゃんと刻まれている

のだと痛感しました。これこそまさに愛国心です。

近年はスポーツの世界大会等で、寄せ書きをした日の丸を掲げて応援する若者が見うけられますが、国旗の白い部分は余白ではないと言ったことを彼らに言いたい。戦争時代にそういうこともあったでしょうが、今はそういう時代ではありません。日の丸に白地全部含めて「日本の象徴・国旗日の丸」なのだということを大人が教えないといけません。

### ■悪意ある報道

今の報道機関は、皇室のことを敬意を持って正しく伝えていないとは思えません。週刊誌に至っては悪意すら感じます。新聞では、朝日新聞が特に酷いですね。「朝日」の「朝」は「朝鮮」の「朝」ではないかと思うくらい、失敬な報道をする新聞社です。

私は、今後も皇室の正しい姿を、若い世代を始め皆さまにお伝えしていきたいと思っています。

(文責・堀川宏史)

# 会員の ご紹介

## 京都府議会神道議員連盟 京都市神道議員連盟



京都府議会  
石田宗久先生

神道政治連盟京都府本部の皆様におかれましては、日頃から日本の伝統文化や家族の絆を守るため、精力的に活動しておられますことに、心から感謝申し上げます。また京都府議会神道議員連盟の活動にも、何かとご支援いただき厚く御礼申し上げます。

さて、現在、私は、京都府議会の政策調整会議のメンバーとして、交通安全に関する議員提案の条例案を検討しているところであります。一昨年の亀岡や祇園での悲惨な事故を思うと、改めて、オール京都で一丸となって交通事故をおこさない社会風土・環境づくりを行っていくことが急務であります。これから、交通安全関係団体等との意見交換会を開き、寄せられた意見を基に条文案を作成し、本年度内の成立を目指し、頑張っております。

日本人は古来より、八百万の神や山川草木悉皆成仏と言われるように、森羅万象に神仏が宿ると考え、人間の力の及ばない自然の偉大な力に畏敬の念を持ってきました。最近、あまり聞かなくなりましたが、「お天道様が見ておられる」という言葉があります。子どもたちにとっても、大人にとっても、現在でも通用する大切な教えであり、次代に継承していかねばなりません。「天網恢恢疎にして漏らさず」お天道様に恥じることはないように、日々、精進して参ります。



京都市議会  
山本恵一先生

神道政治連盟京都府本部の皆様におかれましては、世界に誇る日本の文化・伝統を後世に正しく伝えることを目的に結成されて以来、日夜ご奮闘いただいておりますことに、尊敬の念を表明させていただきますとともに、私たち京都市民のくらしの安寧をご祈願いただき、感謝の念を禁じえません。まことにあ

りがとうございます。

戦後の日本は、経済発展によって物質的には豊かになりましたが、その反面、精神的な価値よりも金銭的な価値が優先される風潮や、思い遣りやいたわりの心を欠く個人主義的な傾向が強まり、多くの社会問題を抱えるようになりました。このような趨勢の中で、京都市神道議員連盟は、神道政治連盟京都府本部の皆様とともに、戦後おろそかにされてきた日本的な精神価値の大切さを訴える取り組みをしてきております。

私は京都市北区選出の市会議員ですが、北区西賀茂大將軍神社の氏子参与として同神社の隆盛のため微力を尽くして参りました。また、賀茂別雷神社でも、同社崇敬会顧問として、来年執り行われる式年遷宮の成功に向けて精進させていただいております。日本人の持つ和の心(お・も・て・な・し)が世界に波及し、二〇二〇年東京五輪が成功して、世界に冠たる美しい日本が実現していきますよう、ともに頑張っております。

## 平成25年

- 12月1日 洛西支部神宮大麻曆頒布始奉告祭並び総代会総会 林本部長出席〈於 松尾大社〉  
 12月6日 京都府戦没者英霊追悼慰霊祭並びに時局講演会 〈於 京都ガーデンパレス〉  
 " 清政55号発行  
 12月10日 神道政治連盟兵庫県本部時局講演会 林本部長・中嶋事務局長出席 〈於 生田神社会館〉  
 12月15日 神社庁教化委員会並び関係団体代表者懇話会 林本部長出席 〈於 京都府神社会館〉  
 12月17日 神道政治連盟近畿地区協議会 林本部長以下2名出席 〈於 藤居本家〉  
 12月20日 京都府本部役員会 林本部長以下26名 〈於 Hグランヴィア京都〉  
 12月23日 天長節奉祝日本会議京都式典 90名 〈於 Hグランヴィア京都〉

## 平成26年

- 1月25日 寺田一博市議員を囲む会 林本部長・梶幹事長・宇佐美委員長出席 〈於 ANA クラウンプラザH〉  
 1月27日 京都府神社庁新年神職総会関係団体助成金交付式 林本部長出席 〈於 京都府神社会館〉  
 1月28日 神道政治連盟役員会 林本部長出席 〈於 神社本庁〉  
 1月31日 京都の躰を語る女性の会提言者会議 7名出席 〈於 京都府神社会館〉  
 2月11日 建国記念の日奉祝京都式典 関係者出席 〈於 京都府神社会館〉  
 2月13日 お伊勢さん初まいり 林本部長出席 〈於 神宮〉  
 ~14日  
 2月18日 京都府神社庁祈年祭 林本部長参列 〈於 京都府神社会館神殿〉  
 2月23日 渡辺邦子京都府議会議員を囲む会 梶幹事長出席 〈於 ウェスティン都H〉  
 2月24日 神道政治連盟第12回時局対策連絡会議 田中青年隊員・中森事務局員出席 〈於 神社本庁〉  
 ~25日  
 3月1日 自民党京都府支部連合会関係団体会議 梶幹事長出席 〈於 活力ある京都をつくる会事務所〉  
 " 財団法人伊勢神宮式年遷宮奉賛会京都府本部解散式 林本部長出席 〈於 平安神宮会館〉  
 3月2日 桜井泰広市議員を囲む会 林本部長出席 〈於 グランドプリンスH京都〉  
 3月8日 西田昌司参議院議員政経パーティー 5名出席 〈於 京都ブライトンH〉  
 3月21日 自由民主党京都府連合会決起大会 本部長出席 〈於 ANA クラウンプラザH〉  
 3月26日 京都府神社総代会総会 林本部長出席 〈於 Hグランヴィア京都〉  
 3月27日 靖國神社慰霊参拝団 林本部長以下29名出席 〈於 靖國神社〉  
 3月28日 神道政治連盟近畿地区協議会幹事長事務局長会議 中嶋事務局長出席 〈於 大阪府神社庁〉  
 4月5日 京都府知事選山田候補個人演説会 吉田副本部長出席 〈於 醍醐中学校〉  
 4月6日 京都府知事並び京都府議会議員補欠選挙投票日  
 4月7日 山田知事並び池田、藤山、園崎府議会議員当選祝電打電  
 4月11日 京都府本部役員会 林本部長以下22名 〈於 京都府神社会館〉  
 4月17日 京都府神社庁例祭 林本部長参列 〈於 京都府神社会館〉  
 " 神社庁並び総代会関係者合同会議 林本部長出席 〈於 京都府神社会館〉  
 4月25日 神道政治連盟役員会 林本部長出席 〈於 神社本庁〉  
 5月6日 洛東支部総代会総会 林本部長出席 〈於 魚善〉  
 5月13日 清和政策研究会との懇親の集い 林本部長出席 〈於 東京プリンスH〉  
 5月16日 京都府本部三役会 〈於 糸仙〉  
 5月28日 京都府本部・神道府議連・神道市議連合同執行部懇談会 〈於 糸仙〉  
 5月29日 裕和会講演会 林本部長出席 〈於 京都国際H〉  
 6月7日 安藤ひろし第3回政経セミナー 花房・横山両副本部長出席 〈於 文化パルク城陽〉  
 6月11日 神道政治連盟役員会 林本部長出席 〈於 神社本庁〉  
 " 神道政治連盟本部長事務局長連絡会 林本部長・中嶋事務局長出席 〈於 神社本庁〉  
 " 神道政治連盟・同国会議員懇談会合同祝賀会 林本部長以下4名出席 〈於 Hニューオオタニ〉  
 6月12日 神道政治連盟中央委員会 林本部長以下4名出席 〈於 神社本庁〉  
 6月17日 京都府本部綱紀並び財務合同委員会 〈於 京都府神社会館〉  
 " 京都府本部役員会 〈於 京都府神社会館〉  
 6月18日 京都の躰を語る女性の会例会 〈於 藤森神社・清和荘〉  
 6月21日 船井支部神社総代会総会 林本部長出席 〈於 明治国際医療大学〉  
 6月23日 第28回会員大会開催 〈於 リーガロイヤルH京都〉  
 " 清政第56号発行

# 御製を拝し

帰り来るを立ちて待てるに季ときのなく岸とふ文字を歳時記に見ず

この御歌は、平成二十四年の歌会始に皇后陛下が詠まれた御歌です。お題は「岸」。

最初に拝見しても、果たして何のことをお詠みになつていいのか、歌の教養の乏しい者には何とも難解な和歌です。宮内庁ホームページの解説には「俳句の季語を集めた歳時記に「岸」という項目はなく、そのことから、春夏秋冬季節を問わず、あちこちの岸辺で誰かの帰りを待つて佇む人の姿に思いを馳せてお詠みになられた御歌。この度の津波で行方不明となった人々の家族へのお気持ちと共に、戦後の外地からの引揚げ者、シベリアの抑留者等、様々な場合の待つ人待たれる人の姿を、「岸」という御題に重ねてお詠みになつていらっしゃるようです。」とあります。

何と奥深い御歌なのでしょう。上の句で「季」を「とき」と読ませ、「岸」が季語ではないということから「どの季節であろうがいつでも」津波に家族を流されたものは、岸に立つてその帰りを待ち続けている、という東日本大震災の被災者へのいたわりと慈愛に満ちた御歌です。あらためて皇后陛下の被災地に寄せる御心、また優れた感性と知性を感じる御歌です。

## 編集後記

第一次安倍内閣が発足して八年、第二次安倍内閣が誕生して一年半が過ぎようとしている。闘う保守政治家である安倍総理の信念は全くぶれることなく現在に至っている。

安倍総理が最重要課題と位置づける北朝鮮による拉致問題は、先日北朝鮮側が再調査を約束した。安倍総理は、平成十八年の政府主催拉致集会でも「拉致問題の解決なくして国交正常化なしとの原則は、私が総理大臣である限り必ず守っていく」と断言された。問題山積ではあるが「自らかえりみてなおくんば、一千万人といえどもわれゆかん」の精神でこの難局を打開し、拉致被害者とその家族に光明が差すことを願つてやまない。(神)



神道政治連盟京都府本部会報

清政 第56号

発行日：平成26年6月23日  
発行所：神道政治連盟京都府本部  
〒616-0022  
京都市西京区嵐山朝月町68-8  
電話075-863-6677